

真に民主的な労働運動を
不断に追求し、働く者と
家族の幸せ、JR産業の持
続的発展を実現しよう！

http://www.jr-rengo.jp



JR連合

JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION

日本鉄道労働組合連合会
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル9階
TEL (NTT) 03-3270-4590 (JR) 057-7848
FAX (NTT) 03-3270-4429 (JR) 057-7849
1部20円 (但し組合費に含む)
●発行者 荻山市朗 ●編集者 今井孝治

facebook
twitter

28歳青年 貨物鉄産労に加入

貨物鉄産労東海地区本部は、昨年の九州地区本部に続き、1月12日付で新たな仲間が加わった。東海支社管内で働く28歳青年が、日貨労を脱退し、貨物鉄産労への加入を決断した。

J R 連合 8 万 6 千人は勇気ある決断を心より歓迎します。

**J R に働くすべての仲間の
J R 連合への
総結集をめざそう**



分科会プロジェクトで各単組の取り組みの共有化を要請する八木代表幹事

JRグループ労組連絡会 2020春季生活闘争と 組織強化・拡大にむけ着実に取り組みを展開

安心して働き続けられる職場を実現する

J R グループ労組連絡会
は昨年12月12日、大阪市で
「第17回分科会プロジェクト
(以下PT)」を開催し、幹
事会とグループ93単組の代
表者、エリア連合担当者な
ど総勢110人が出席した。
PTでは、加盟全単組が、
グループ会社における離職
者の増加とそれによる人手
不足の常態化に危機感を強
く持ち、2020春季生活
闘争では、離職の原因と対
策をあらゆる観点から追求
し、J R グループで働くすべ
ての仲間が退職まで安心し
て働き続けることのできる
就労環境を実現していくた
め、奮闘することを意思統
一した。また、J R 連合と
加盟全単組がめざす運動の
理念と方向性について意見
交換を行い、共有を図った。
幹事会を代表して八木大

各単組で2020活動スタート

『会社の発展と組合員・家族 の幸せ』の実現めざす

1月8日、豊橋にてJ R
東海連合及びJ R 東海ユニ
オンは「2020新春賀詞
交歓会」を開催した。J R
連合からは荻山市朗会長を
はじめ尾形泰二事務局長
今井孝治企画部長が参加し
J R 連合国会議員懇談会か
らは会長の榛葉賀津也参議
院議員が駆けつけた。

冒頭、挨拶に立った鎌田
茂J R 東海連合会長・J R
東海ユニオン中央執行委員
長は「安全の確立にむけ、
労働組合の強みであるチェッ
ク機能と提言活動を積極的
に展開しなければならない。
2020春季生活闘争では、

J R 西日本グループ全体の 安全確立をはかる

J R 西労組は、1月8日
大阪市内で「2020年安
全を誓い前進する集い」
を開催した。

多くの友誼団体をはじめ、
J R 連合国会議員懇談会副
会長の泉健太参議院議員、
さらには昨年の参議院選挙
で支援した森屋たかし参議
院議員も来賓に迎え、J R
連合からは荻山会長と中山
耕介組織部長が参加した。

粘り強く労働組合の必要性を説く

1月24日、エリア連合担
当者とともに連合の最大構
成組織であるU A センセン
を訪問し、組織化に関する
意見交換を実施した。

化し、今後の取り組みに活
かしていくことを要請した。
また、未だに労働組合に加
入していない未組織労働者
が多数存在している状況を
踏まえ、「J R 産業におけ
る民主的な労働組合と健全
な労使関係の必要性を、2
020春季生活闘争を通じて
内外に訴えていこう」と
呼びかけた。

今後、2020春季生活
闘争方針は2月12日に開催
する「2020春闘総決起
集会」において確認・意思
統一することとしている。

加藤局長は、「U A セン
セン運動は組織化が二目
一石であり、「仲間を増
やすこと」と「仲間を守る
こと」を基に、年間4
5万人の組織拡大を目標に
掲げ、約500社の企業を
訪問している」と取り組み
の一端を述べた。そして、
「労働組合の結成にあつ
て重要なことのひとつに経
営側の理解がある」として、
生産性や企業イメージの向
上、企業防衛などの観点か
ら労働組合の必要性を粘り
強く説明し、経営側と従業
員側双方の合意の下、労働
組合を結成していることが
紹介された。

U A センセンは繊維・衣
料など国民生活に関連する
多種多様な産業で働く仲間
が結集している日本最大の
産業別労働組合で、201
9年9月現在約180万人
が加入している。また、パ
ート・アルバイトなど多様な
雇用形態で働く仲間の組織
化にも積極的に取り組んで
おり、当日は組織局を所管
する加藤利行局長からU A
センセンの取り組みについ
て説明を受けた。

活用して事
故を伝え教
訓化するこ
ともにも取
組む。また
「J R 西日
本連合・J
R 西労組安
全提言(改
訂版)」を
策定し、鉄道安全考動計画
2022の実効性を高めて
いく。働く仲間が互いに確
認し合うことを徹底し、J
R 西日本グループ全体の安
全確立を基礎に位置付けて
すべての運動を進めていく
との決意を述べた。

J R 北海道労働組合



J R 北労組「2020年新年交歓会」



J R 四国労組「2020年新年交歓会」

J R 北海道の再生にむけて 総力を挙げる

J R 北労組は1月11日、
札幌の地に
おいで、多
くの仲間の
参加のもと
2020年
新年交歓会
を開催した。
交歓会に
は、連合北
海道をはじめ

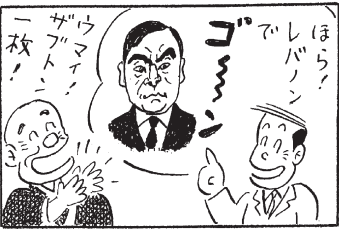
めとする連合傘下の産別や
多くの国会議員及び地方議
員、そしてJ R 連合からは
尾形事務局長が参加した。
年頭の挨拶に立ったJ R
北労組組長弘美中央執行委員
長は、政策課題及び組織強
化・拡大の2点について決
意の一端を述べた。とりわ

運動の継承とさらなる飛躍に むけた全員参加の運動を

J R 四国労組は、1月11
日、香川県宇多津町におい
て、2020年新春セミナー
及び2020年新春交歓会

新春セミナーでは、荻山
会長が責任ある労働組合の
役割や集団的労使関係の必
要性などを講演し、今後の
J R 連合の取り組みにむけ
た決意を語った。

新年交歓会には、J R 連
合が責任ある労働組合の
役割や集団的労使関係の必
要性などを講演し、今後の
J R 連合の取り組みにむけ
た決意を語った。



民主的労働運動の必要性を説く

「JR東日本」の労働組合は、民主的労働運動の必要性を説く。労働組合は、労働者の権利を守るために必要不可欠である。労働組合は、労働者の声を代弁し、労働条件の改善を求め、労働者の生活を守るために必要不可欠である。労働組合は、労働者の声を代弁し、労働条件の改善を求め、労働者の生活を守るために必要不可欠である。

最後に、役員改選が行われ、これまで北陸地協連動を牽引してきた本田議長が、JR連合東北地協第28回定期委員会

「JR連合東北地協第28回定期委員会」は、12月14日、仙台市内で第28回定期委員会を開催し、「真に民主的な労働運動を不断に追求し、安全最優先の取り組み、政策・組織課題の実現を通じて働く者と家族の幸せ、JR産業の持続的発展を実現しよう」をスローガンに据えた向こう1年間の活動方針を決定し、取り組みを進めることを確認した。

「JR東日本」の労働組合は、民主的労働運動の必要性を説く。労働組合は、労働者の権利を守るために必要不可欠である。労働組合は、労働者の声を代弁し、労働条件の改善を求め、労働者の生活を守るために必要不可欠である。労働組合は、労働者の声を代弁し、労働条件の改善を求め、労働者の生活を守るために必要不可欠である。

JR貨物グループ労働組合連合会（JR貨物連合）は、11月30日、都内で「直面する、組織・政策課題に、真正面から取り組み、安全最優先の職場風土を作り上げよう」をメインスローガ

JR貨物グループ労働組合連合会（JR貨物連合）は、11月30日、都内で「直面する、組織・政策課題に、真正面から取り組み、安全最優先の職場風土を作り上げよう」をメインスローガ

JR貨物グループ労働組合連合会（JR貨物連合）は、11月30日、都内で「直面する、組織・政策課題に、真正面から取り組み、安全最優先の職場風土を作り上げよう」をメインスローガ

JR貨物グループ労働組合連合会（JR貨物連合）は、11月30日、都内で「直面する、組織・政策課題に、真正面から取り組み、安全最優先の職場風土を作り上げよう」をメインスローガ

JR貨物グループ労働組合連合会（JR貨物連合）は、11月30日、都内で「直面する、組織・政策課題に、真正面から取り組み、安全最優先の職場風土を作り上げよう」をメインスローガ

JR貨物グループ労働組合連合会（JR貨物連合）は、11月30日、都内で「直面する、組織・政策課題に、真正面から取り組み、安全最優先の職場風土を作り上げよう」をメインスローガ

JR貨物グループ労働組合連合会（JR貨物連合）は、11月30日、都内で「直面する、組織・政策課題に、真正面から取り組み、安全最優先の職場風土を作り上げよう」をメインスローガ

JR貨物グループ労働組合連合会（JR貨物連合）は、11月30日、都内で「直面する、組織・政策課題に、真正面から取り組み、安全最優先の職場風土を作り上げよう」をメインスローガ

JR貨物グループ労働組合連合会（JR貨物連合）は、11月30日、都内で「直面する、組織・政策課題に、真正面から取り組み、安全最優先の職場風土を作り上げよう」をメインスローガ

JR貨物グループ労働組合連合会（JR貨物連合）は、11月30日、都内で「直面する、組織・政策課題に、真正面から取り組み、安全最優先の職場風土を作り上げよう」をメインスローガ



大会後の安全ディスカッション

冒頭大杉正美会長（JR連合副会長・貨物鉄産労中央執行委員長）は挨拶で、各ロジスティクス労組に対して、ロジスティクス各社における責任組合としての自覚と奮起を促すとともに、離職防止や税制特例措置の継続適用にむけた取り組みなど、JR貨物グループの直面する課題に対して所信を述べた。

JR四国グループの明るい将来展望を切り開く

JR四国グループ労働組合委員長は冒頭の挨拶で、「JR四国グループの健全な発展と魅力ある職場づくり、労働条件と社会的地位の向上・定着を通じて、安全・安心で将来に希望を持てるJR四国グループを創造しよう」をスローガンに、第25回定期大会を開催した。

JR四国グループの明るい将来展望を切り開く

JR四国グループ労働組合委員長は冒頭の挨拶で、「JR四国グループの健全な発展と魅力ある職場づくり、労働条件と社会的地位の向上・定着を通じて、安全・安心で将来に希望を持てるJR四国グループを創造しよう」をスローガンに、第25回定期大会を開催した。

JR四国グループの明るい将来展望を切り開く

JR四国グループ労働組合委員長は冒頭の挨拶で、「JR四国グループの健全な発展と魅力ある職場づくり、労働条件と社会的地位の向上・定着を通じて、安全・安心で将来に希望を持てるJR四国グループを創造しよう」をスローガンに、第25回定期大会を開催した。

JR四国グループの明るい将来展望を切り開く

JR四国グループ労働組合委員長は冒頭の挨拶で、「JR四国グループの健全な発展と魅力ある職場づくり、労働条件と社会的地位の向上・定着を通じて、安全・安心で将来に希望を持てるJR四国グループを創造しよう」をスローガンに、第25回定期大会を開催した。

JR四国グループの明るい将来展望を切り開く

JR四国グループ労働組合委員長は冒頭の挨拶で、「JR四国グループの健全な発展と魅力ある職場づくり、労働条件と社会的地位の向上・定着を通じて、安全・安心で将来に希望を持てるJR四国グループを創造しよう」をスローガンに、第25回定期大会を開催した。

JR四国グループの明るい将来展望を切り開く

JR四国グループ労働組合委員長は冒頭の挨拶で、「JR四国グループの健全な発展と魅力ある職場づくり、労働条件と社会的地位の向上・定着を通じて、安全・安心で将来に希望を持てるJR四国グループを創造しよう」をスローガンに、第25回定期大会を開催した。

JR四国グループの明るい将来展望を切り開く

JR四国グループ労働組合委員長は冒頭の挨拶で、「JR四国グループの健全な発展と魅力ある職場づくり、労働条件と社会的地位の向上・定着を通じて、安全・安心で将来に希望を持てるJR四国グループを創造しよう」をスローガンに、第25回定期大会を開催した。

JR四国グループの明るい将来展望を切り開く

JR四国グループ労働組合委員長は冒頭の挨拶で、「JR四国グループの健全な発展と魅力ある職場づくり、労働条件と社会的地位の向上・定着を通じて、安全・安心で将来に希望を持てるJR四国グループを創造しよう」をスローガンに、第25回定期大会を開催した。

JR貨物連合・JR四国連合が定期大会

責任組合としての自覚と奮起を促す

冒頭大杉正美会長（JR連合副会長・貨物鉄産労中央執行委員長）は挨拶で、各ロジスティクス労組に対して、ロジスティクス各社における責任組合としての自覚と奮起を促すとともに、離職防止や税制特例措置の継続適用にむけた取り組みなど、JR貨物グループの直面する課題に対して所信を述べた。

JR貨物連合・JR四国連合が定期大会

冒頭大杉正美会長（JR連合副会長・貨物鉄産労中央執行委員長）は挨拶で、各ロジスティクス労組に対して、ロジスティクス各社における責任組合としての自覚と奮起を促すとともに、離職防止や税制特例措置の継続適用にむけた取り組みなど、JR貨物グループの直面する課題に対して所信を述べた。

JR貨物連合・JR四国連合が定期大会

冒頭大杉正美会長（JR連合副会長・貨物鉄産労中央執行委員長）は挨拶で、各ロジスティクス労組に対して、ロジスティクス各社における責任組合としての自覚と奮起を促すとともに、離職防止や税制特例措置の継続適用にむけた取り組みなど、JR貨物グループの直面する課題に対して所信を述べた。

JR貨物連合・JR四国連合が定期大会

冒頭大杉正美会長（JR連合副会長・貨物鉄産労中央執行委員長）は挨拶で、各ロジスティクス労組に対して、ロジスティクス各社における責任組合としての自覚と奮起を促すとともに、離職防止や税制特例措置の継続適用にむけた取り組みなど、JR貨物グループの直面する課題に対して所信を述べた。

JR貨物連合・JR四国連合が定期大会

冒頭大杉正美会長（JR連合副会長・貨物鉄産労中央執行委員長）は挨拶で、各ロジスティクス労組に対して、ロジスティクス各社における責任組合としての自覚と奮起を促すとともに、離職防止や税制特例措置の継続適用にむけた取り組みなど、JR貨物グループの直面する課題に対して所信を述べた。

JR貨物連合・JR四国連合が定期大会

冒頭大杉正美会長（JR連合副会長・貨物鉄産労中央執行委員長）は挨拶で、各ロジスティクス労組に対して、ロジスティクス各社における責任組合としての自覚と奮起を促すとともに、離職防止や税制特例措置の継続適用にむけた取り組みなど、JR貨物グループの直面する課題に対して所信を述べた。

JR貨物連合・JR四国連合が定期大会

冒頭大杉正美会長（JR連合副会長・貨物鉄産労中央執行委員長）は挨拶で、各ロジスティクス労組に対して、ロジスティクス各社における責任組合としての自覚と奮起を促すとともに、離職防止や税制特例措置の継続適用にむけた取り組みなど、JR貨物グループの直面する課題に対して所信を述べた。

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

冒頭、小川淳也衆議院議員（JR連合国会議員懇談会事務局）より、泉健太衆議院議員（同副会長）、広田一衆議院議員（同幹事）

JRに残された最大の課題解決へ

そのうえで、経営支援措置については単なる弥縫策にとどまらず、将来の経営自立の道を拓いていくものにしなくてはならない。若手の離職が相次ぐ状況もあり、働く者が希望を持てる環境を作っていくことが大事。政治・行政・地域と連携しつつ、骨太の議論を展開して、本P.T.がリードしていきたい」と所信を述べた。

そのうえで、経営支援措置については単なる弥縫策にとどまらず、将来の経営自立の道を拓いていくものにしなくてはならない。若手の離職が相次ぐ状況もあり、働く者が希望を持てる環境を作っていくことが大事。政治・行政・地域と連携しつつ、骨太の議論を展開して、本P.T.がリードしていきたい」と所信を述べた。

そのうえで、経営支援措置については単なる弥縫策にとどまらず、将来の経営自立の道を拓いていくものにしなくてはならない。若手の離職が相次ぐ状況もあり、働く者が希望を持てる環境を作っていくことが大事。政治・行政・地域と連携しつつ、骨太の議論を展開して、本P.T.がリードしていきたい」と所信を述べた。

そのうえで、経営支援措置については単なる弥縫策にとどまらず、将来の経営自立の道を拓いていくものにしなくてはならない。若手の離職が相次ぐ状況もあり、働く者が希望を持てる環境を作っていくことが大事。政治・行政・地域と連携しつつ、骨太の議論を展開して、本P.T.がリードしていきたい」と所信を述べた。

そのうえで、経営支援措置については単なる弥縫策にとどまらず、将来の経営自立の道を拓いていくものにしなくてはならない。若手の離職が相次ぐ状況もあり、働く者が希望を持てる環境を作っていくことが大事。政治・行政・地域と連携しつつ、骨太の議論を展開して、本P.T.がリードしていきたい」と所信を述べた。

そのうえで、経営支援措置については単なる弥縫策にとどまらず、将来の経営自立の道を拓いていくものにしなくてはならない。若手の離職が相次ぐ状況もあり、働く者が希望を持てる環境を作っていくことが大事。政治・行政・地域と連携しつつ、骨太の議論を展開して、本P.T.がリードしていきたい」と所信を述べた。

そのうえで、経営支援措置については単なる弥縫策にとどまらず、将来の経営自立の道を拓いていくものにしなくてはならない。若手の離職が相次ぐ状況もあり、働く者が希望を持てる環境を作っていくことが大事。政治・行政・地域と連携しつつ、骨太の議論を展開して、本P.T.がリードしていきたい」と所信を述べた。

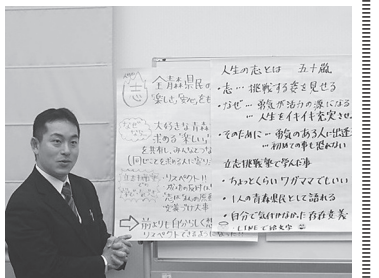


本プロジェクトの目的を訴える荻山会長

役員紹介

JREユニオン中央本部 中央執行委員 五十嵐 優一 さん

生れも育ちも青森県。38歳延び盛りの私は、常に「学ぶ」ことを意識しています。ほんの一例ですが、青森県庁主催の若手育成プログラム「あおり立志挑戦塾」の第12期生リーダーとして経験を積ませていただいています。青森県は、鉄道好きがきっかけで2014年春、JR東日本に中途入社しました。当時は周りに流され他労組に加入していましたが、一心脱退。労使双方の健全な発展のためには労働組合が必要であるとの認識があり、自分では判断に迷い、最後の駆け込み寺として前職の労組時代から慕っている「お師匠さま」に相談し、「JR連合」を御指南いただき、現在に至っております。



「あおり立志挑戦塾」にて

自然は強い。共済も強い。

自然は強い。共済も強い。

自然は強い。共済も強い。



火災共済/地震風水害共済/交通災害共済/入院共済